

親子でキャベツまるごと体験 ジョオツアー

石毛 美子

三月二十九日(水)、風は冷たかったですが快晴の一日、銚子ジオパーク推進協議会主催の「親子でキャベツまるごと体験ジョオツアー」が実施されました。

参加者は(大人八人、子ども十三人)市民の会から十一名、事務局から三名、横芝から三名、あとは市内からでしたが、東京から市内の祖母と一緒に参加した五年生の女の子(昨年も参加)もいました。

時間通り文化会館より市バスで八時三十分に出発。先ず「JAちばみどり営農センター銚子」への見学に向かいました。バスの中では、じゃんけんゲームやキャベツ料理の種類を皆で発表したりと楽しく過ごしました。JAグリーンホーム銚子の玄関では「ジオっちょ」と

「ちよーびー」が迎えに来て、子供たちは大喜びで、握手したり記念撮影をしたりで歓声が飛び交っていました。センターの伊藤さんよりキャベツについての説明がありました。

銚子の春キャベツは日本一の生産量で、最盛期には一日にトラック百台分(一台に八個入り)が九百十ケース(積載)が出荷され、年三回の生産・収穫のうち、春キャベツだけでなんと約六百五十万ケースも出荷しているとの事でした。

またキャベツは午前中収穫して午後入荷、一晩冷やした後翌日出荷、大根は前日収穫し、洗って箱詰めした物を翌日の朝入荷されるそうです。説明は勿論、その後の山田さんによるキャベツのクイズでも、皆さん目を輝かせていました。次は小畑町のサン

ズファーム寺井さん宅の畑に移動し、無農薬のキャベツの収穫体験を楽しみました。自然農法を始めたのは、長男が小学生の時小児喘息で苦しんだことがきっかけだったそうで、十年前から農薬を使わない農業に変えたわ、顔色も良くなり喘息も治ったそうです。農薬を使わない畑は草がいつぱいで見られないような大きくて立派なキャベツには驚きました。

調理用とお土産用家族一個ずつ収穫すると共に大根も収穫し、バスに戻り、市民センターに移動してキャベツ料理に入りました。担当の白土さんから作り方の説明があり、

焼き、コーン、ソメ、プと

三種類のキャベツ料理を和気あいあいとした雰囲気の中で作り美味しく戴きました。食後の宗さんの紙芝居(キャベツの歴史)と、山田さんによる銚子ジオパークについての映像を通してお話にも目を輝かせ熱心に耳を傾けていました。帰路は海岸線の犬吠から君ヶ浜、川口の魚市場を回って頂き文化会館へ到着。キャベツと大根のお土産を手に、皆さん笑顔で解散しました。皆さん同様、私も楽しい有意義な体験をさせて頂いた一日でした。天候に恵まれ、「親子でキャベツまるごと体験ジョオツアー」も無事終了。皆さまもお疲れさまでした。

一人一人が災害リスクに向き合い、社会全体で災害に備える

熊…おっは、グータラ隠居元気にしてるかね。グータラ隠居…おはよう、元気な熊さん。熊…朝っぱらから、こむずかしそうな物を読んでるね。隠居…これはね、平成28年版の防災白書だよ。熊…面白くなさそ。隠居…まあそう言わずに読んでみなよ。熊…やだよ二ちよちよいと要点だけ聞かせてくれよ。隠居…(こ)まつたものだね。大事な事が沢山書かれてはいるが…ポイントは『「防災4.0」一人一人が災害リスクに向き合い、社会全体で災害に備える』だな。熊…なんだい、その「防災4.0」ってのは？

『防災4.0』

特性があるだろう。熊…うんうん。隠居…これまでに、防災に関する取組の転換点となった大災害が3度あったんだよ。熊…うん？ 〇度の大災害、なんだったけ？ 隠居…1959年(昭和34年)の伊勢湾台風、1995年(平成7年)の阪神・淡路大震災、そして2011年(平成23年)の東日本大震災だよ。これら3つの大災害を通じ、得られた反省点や教訓、講じられてきた措置を「防災1.0」「防災2.0」「防災3.0」として整理した。熊…なるほど。そしてこれからの隠居…これからは、

気候変動がもたらす災害の激甚化に備えるため、国民の一人一人が災害リスクに向き合う取組を「防災4.0」としたんだよ。過去の痛ましい災害による被害を教訓としてきたが、国民や企業などの災害リスクに向き合う姿勢、災害に対する「備え」の意識は、まだまだ十分とは言えないだろう。熊…そうだな、どこかよそごとになっているな。隠居…災害への備えは、一人一人が、それぞれの目線で必要な対策を考えることが肝要だよ。それに忘れてならないのは、地球温暖化に伴い極端な集中豪雨の発生など、気候変動がもたらす激甚化する災害への備えだよ。(次号に続く)

一人一人が災害リスクに向き合い、社会全体で災害に備える

今月の俳句
花ぐもり 人それぞれに 朝の駅
若菜つみ あの頃のこと あの人は
庭仕事 ひとまず終えて 竹の秋
保立 徳造

